



東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会  
「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」  
についての提案様式

「持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク」をご覧いただいた上で、東京 2020 大会を持続可能な大会にするためのご提案をお願いいたします。

いただいたご意見は、今後の検討に活用させていただきます。

1. ご提案内容に該当するテーマの記号を選択してください。

記号	テーマ	✓	記号	テーマ	✓
A	気候変動 (ローカーボンマネジメント)		G	計画の実現に向けたツール (持続可能性に配慮した調達コード)	
B	資源管理				
C	水・緑・生物多様性	✓	H	計画の実現に向けたツール (ISO20121)	
D	人権・労働・公正な事業慣行等への配慮				
E	参加・協働、情報発信 (エンゲージメント)		I	計画の実現に向けたツール (オリンピック大会影響調査)	
F	その他 ( )				

<記号 A~F を選択された方>

2. 東京 2020 大会を持続可能な大会とするために、必要と考えられる施策をご提案ください。なお、記載にあたっては、できるだけ具体的にお願いします。

- (1) なぜその施策が必要と考えますか。その施策に関連する国内外の現状、東京 2020 大会との関連及び東京 2020 大会後への影響等も含めご記載ください。

提案: 東京湾に放流する下水処理場の放流口を沖合に移動し、運河における環境負荷を低減する。

東京都の長期ビジョンにおいて「世界一の都市・東京の実現を目指す」とされている。東京湾はそれを達成するための大きな可能性を有している。現在の東京湾は、物流機能と都市排水の最終的な放流場所として以外には、あまり有効に活用されていない。東京湾の環境を改善し、快適

なものになれば、人々の憩いの場とし、また観光資源として活用することができる。

そのような認識は、既に共有され、東京湾再生推進会議がさまざまな取り組みを行い、着実に成果を出しつづけている。ただ、その進み具合は、いまだに夏期に東京湾奥の低層で無生物状態になることや、運河の水色もほぼ黒い状態であり、芳しい成果が上げられているとは言い難い。環境問題の脅威が増大している中、過去のディーゼル車の排気規制のように、身近な環境を改善し、人々が実感できる成果を示す事が重要と思われる。

海外の事例を見ると、きれいな海岸で名高いオーストラリアのシドニーにおいても、下水の放流口を沖合に延長することは、現実的な解決策として採用されている。都市化が進行する世界で、東京 2020 大会に訪れ、奇麗な海を見た人々が、東京湾の水質に感動し、帰国後に東京湾の技術を導入することも、持続可能な世界の実現のために望まれる。

オリンピック立候補ファイルにみるように、人々は青い東京湾を求めている。「Discover Tomorrow」とスローガンを掲げ、「Tomorrow」の基本コンセプトの一つとして「未来への継承」が定められている。ここで、「Discover 東京湾」を合い言葉に加え、後世の人々が 2020 東京大会を契機に東京湾が蘇ったと記憶されるようになることを願う。目標を、運河における水環境の大幅な改善とし、東京湾再生推進会議の取り組みを加速するために本提案を行う。

- (2) 施策の内容について教えてください。実現に向けて、誰が（関係機関・団体等）、いつ（開始／実施時期）、どこで（場所）、何を（内容）、どのように（期間・規模・経費（負担者も）・その他）実施するか、またその効果についてご記載ください。

#### （施策の内容）

東京湾再生推進会議の参加機関が、できるだけ早くに、下水の高度処理により陸域からの環境負荷が富栄養化を引き起こさないレベルに低減されるまで、人々との接点となる運河などに位置する下水処理場の放流口を東京湾の可能な限り沖合に延長し、親水空間での水質改善の阻害要因の一つを取り除く。

経費は、東京都再生推進会議の構成機関が負担し、また、東京湾に面する企業にも技術や費用の支援を要請する。経費の規模は、計画の策定に 1000 万円程度、実施費用はもたらされる経済効果の推定より決める。

(その効果)

現在、人々の目に触れやすい運河の水質は快適なものとは言いがたい。これは、人口と産業の集積により負荷が集中する東京湾において、やむを得ないと認識されていると思われる。しかし、例えば、谷津干潟（千葉県習志野市、写真）は、東京湾奥に位置しながら快適で、透明度の高い水質となっている。



(筆者撮影)

谷津干潟以外の多くの場所で、快適な環境が実現されていない原因の一つに、下水処理場の放流口があまりに陸に近すぎることがあると思われる。放流口からの直接の負荷の影響で、水質改善の取り組みの効果が発揮されていない。

そこで、負荷の原因を遠ざけ、既に行われている運河での水質改善の取り組みと合わさることにより、富栄養化、赤潮・青潮発生、貧酸素水塊の発生、無生物状態という負のスパイラルから、陸域からの負荷の低下、生息環境の改善、生物の増加、水質の改善という正のスパイラルへシフトされることが期待できる。運河を水質改善の場所と捉え直し、人々に水環境の改善を身近に感じてもらえるようになる。

また、各下水処理場で進められている高度処理化の優先順位を、河川に放流している処理場から進めるなど戦略的に推進することも可能となる。

(3) 実現に向けて、貴団体はどのように関わること（役割）ができるか、ご記載ください。

個人として、この提案を推進するために、主体的に関わるすることができます。

(有識者との連携)

- 技術系研究者（東京大学、東京海洋大学、横浜国立大学）と流体シミュレーションを行い、配管の延長できる限度範囲内で、処理された水が最短で東京湾外に輸送されると推定できる最適な方流口の位置を特定します。また、運河の生物や水質調査を行い、環境改善の効果を検証します。

- 法学系研究者（慶応大学）と関連法令や規則を精査し、法的整合性を検証します。
- 運河の水質改善がもたらす経済効果の推定を行い、投資可能な経費規模を推定します。

（企業などのステークホルダーとの連携）

- 昨年のコーポレートガバナンスの強化を契機に、民間企業の CSR の取り組みが積極的になりつつある。この状況を踏まえ、東京湾に面する企業に技術や資金の支援を働きかけます。
- 東京湾再生推進会議や運河ルネッサンスの中に位置づけられるよう関係機関と連携します。
- 広く情報を共有し、多くの方々との対話を通じ、地域住民の参加と水辺での活動の新たな機会の創出に取り組みます。
- 達成された成果を広く海外に発信する準備をします。

（４） ご提案の施策を実施する上での課題及びその解決策をご記載ください。

（課題）

- ①提案実現の合意形成
- ②最適な放流口の位置の特定
- ③実現した際の環境への影響の予測
- ④法律や規制との整合性

（解決策）

- ①運河の水質が改善することによる生じる経済的価値と見込まれる経費を比較し、妥当性を検討する。また、情報公開と多様な人々との対話により、アセスメントを行う。
- ②経費の制限より延長できる配管の長さを定め、その範囲内で運河および東京湾の水質改善に最も効果的と思われる放流口の場所を流体シミュレーションにより特定する。
- ③現状として、東京湾奥の低層では夏期に酸素が低下し、無生物状態となっている。これは、守るべき良好な状態とは言いがたい。ただ、放流口の候補地にダイオキシンなどの有害物質が存在するか調査し、あれば浚渫や放流口を他の場所にするなどの対応を求める。
- ④関連する法律や規制を精査し、必要であれば規制緩和を求める。

<記号 G を選択された方>

3. 東京 2020 大会における調達において、持続可能性の観点から配慮する必要性が高いと思われる事項、もしくは特に配慮が必要と考える物品・サービス等は何ですか。また、その理由をできるだけ具体的にご記入ください。

配慮事項／ 配慮が必要な物品・サービス	理由
(例) 児童労働の禁止	〇〇〇

(例) 木材	〇〇〇

<全記号共通>

4. その他、東京 2020 大会の「持続可能性に配慮した運営計画」の策定にあたり、ご意見・ご要望等がありましたら、ご記載ください。

特にありません。

5. 貴団体に関する情報をご記入ください。

貴団体名	
ご担当者名	山吉 信行
ご連絡先 (TEL)	080-5506-9951
ご連絡先 (E-mail)	nb.yamayoshi@gmail.com

※1 組織委員会は、皆さまから収集した個人を特定できるような情報を、意図的に第三者に開示することは一切ございません。くわしくは、個人情報保護方針をご覧ください。

※2 個人でもご提案いただけます（個人の場合は、団体名は空欄で構いません）。

※3 お寄せいただいたご意見は、上記5のうち「ご担当者名」や「ご連絡先」を除き、公表する場合があります。

※4 電話による受付はいたしかねますので、ご了承ください。

※5 いただいたご意見に対して個別に回答はいたしませんので、ご了承ください。

※6 上記連絡先に問い合わせをさせていただく場合があります。

ご提案、ありがとうございました。